

## 教員活動状況報告書

令和 6 年 2 月 20 日

所 属： 獣医 学部 獣医 学科

氏 名： 中村 紳一朗 職位： 教授

役 職：

## I ティーチング・ポートフォリオ

## 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）  
（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して  
数行で説明する。（分量の目安：2～5 行（80 字～200 字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

○獣医学、動物科学の中での実験動物学の社会的な位置づけを明確にし、専門家として学習する意義を理解してもらう。実験動物の飼養保管の方法、実験動物の解剖、生理、微生物学、育種、繁殖、遺伝学、さらに実験動物特有の福祉の考え、関連法規などを総合的に学習する。さらに社会の中で必要とされる実験動物学に関連する職業像を教授する。

科目名	学科・専攻	必，選， 自	配当年次	受講者数
実験動物学	獣医学科	必	3	134
実験動物学	動物応用科学科	必	2	139
実験動物学	食品生命科学科	選	2	51
実験動物学実習	獣医学科	必	2, 4	148+149
実験動物学実習	動物応用科学科	選	3	66
総合獣医学	獣医学科	必	6	165

## 2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。（自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの）（分量の目安：8～12 行（320 字～480 字））

## ○実験動物学の講義について

- ・特に他の科目で扱わない実験動物種に意識を払ってもらうようにする。
- ・実験動物以外としての用途を持つ動物種（例えばイヌ、ブタ）でも、実験動物特有の扱い方、考え方について理解してもらう。
- ・「科学」的側面のみならず、「レギュレーション（動物福祉や法規）」などの文系的側面も理解する。
- ・動物福祉、動物実験の倫理観については、考え方の異なる方がいることを理解する。

- ・「レギュレーション」の枠組みを逸脱すると、社会的な外圧、場合によっては行政などからの処分を受けることを知る。
- ・獣医学科においては、最終的には国家試験で必要な知識を身につける。動物応用科学科の実験動物技術者 1 級受験希望者においては、受験に必要な知識を身につけ、特に実習の内容（ハンドリング、投与方法、解剖の手法等）の理解を深めるよう導く。

#### ○研究室での卒論指導について

コロナ以降、研究室の「組織」としての機能が希薄となったため、特に以下の点に配慮する。

- ・教員、室生と研究室内で意思疎通を図る機会を作る（挨拶や少しばかりの会話など）。
- ・個人対個人のコミュニケーションは取れるようになってきたが、個人が研究室全体や特定の研究グループへ働きかけるようなコミュニケーションが不十分な傾向がある。段取りや呼びかける範囲を見誤っていることが多く、サポートしつつ修正していきたい。社会では必要なコミュニケーションツールである。
- ・実験の準備や片付けを適切に行えるようにトレーニングする。社会に出てから仕事をするときにも必要とされる基礎的スキルであり、大学生の間に身につけさせたい。
- ・もちろん研究に必要なテクニック、知識についても、的確に身につけてもらいたい。

### 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方、方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

#### アクティブラーニングについての取組

- ・事前に配布するハンドアウトは虫食いにし、事前に考える指示をし、講義時に埋めてもらうようにした。講義後に正解入りのハンドアウトを配布した。
- ・講義後に小テストを行った。小テストは講義内あるいは講義から比較的短い時間内に締め切り、緊張感を持たせた。
- ・実習では動物を扱う内容以外で、架空の動物実験計画書の不備を指摘させる課題においては、学生の回答に対し、すべてコメントを返答した。双方向性の学習では、

#### ICT の教育への活用

- コロナ等で欠席する学生で、講義を聞く体調が整っている場合は、受講できるようにネットによる講義の配信とその録画は続けている。欠席する学生への配慮、受講者すべての復習のため、講義の配信と録画は続ける。
- ・LMS で小テストを行った。
- ・講義動画はすべて GoogleDrive へアップし、学生と共有した。ただし講義データが外部へ漏出するのを避けるため、ダウンロード制限、コピー制限をした。
- ・LMS の出席機能を用い、出欠管理を行った。しかし教室での受講者は、LMS で確認できる出席者の約 2/3 であった。PW は教室にいない学生へも漏出しているため、「出席」として登録可能な時間を厳密に制限するなどの対応が必要である。

### 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24 行（600 字～960 字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

(①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください)

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C）：C

- ・独自の創意工夫はあまりしていない。
- ・事前課題ないしは穴あきハンドアウトなどの事前学習の取り組みは、取り組む学生が少なく、スライドの記載を減らし、必要な部分の説明を各自がメモするようにした（教員の話を理解し、整理してまとめる力を培う）。

②学生の理解度の把握（A～C）：B

- ・小テストの問題が基本事項の確認である事と、資料を見ながら解ける環境であるため、講義期間中に理解度の把握ができていない状況である。小テスト、課題の出題方法への改善が必要（問題の質などを踏まえ）。講義時間内に解かせるような取り組みをしたが、講義時間が足りなくなるなど、うまくいかなかった。

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C）：B

- ・ハンドアウトを出来るだけ早くアップし、時間のあるときに確認するように促した。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C）：B

- ・学生からの質問については、できるだけ早急に回答している。

⑤双方向授業への工夫（A～C）：C

- ・実習では一部実現している。講義ではなかなかうまくいっていないのが実情である。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）

○獣医学科 6 年次総合獣医学

- ・過去 8 年間の実験動物分野からの出題傾向を解析し、重要な部分を中心に講義した。
- ・傾向を理解して、「ムダ」を省くコツも教示した。例えば他科目との重複点などを例示し、どちらかの科目で勉強すれば良いことを示した。
- ・実験動物学ならではの動物種（げっ歯類、ウサギ、サル類）を重点的に学習する。
- ・重点項目は、(1)各実験動物種の比較生物学（特に解剖学、生理学）、(2)各実験動物種の感染症と微生物学的管理、(3)各実験動物種の遺伝学、繁殖学と関連技術、であった。これらの内容を国家試験問題の解説をしながら、概略を説明した。
- ・関連法令も実験動物の範囲外（例えば必須問題の法令）で出題されるので、解説した。

○獣医学科 3 年次の実験動物学

- ・各講義後の小テストは、国家試験でも重要となるであろう項目を出題した。

5. 学生授業評価（分量の目安：4～7 行（160 字～280 字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

2022 年度の評点は平均的だったので、コメントとしていただいた内容はできるだけ反映す

るように対応した。ハンドアウトを1ページ4枚で配布しており、画面が小さいというコメントが多かったので、A4の1ページにスライド1枚が入る形式にした。

② ①の結果はどうでしたか。

今年度の授業評価の結果は自身で確認することができず、この項目への回答はできない。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

ハンドアウトが手元にあって学習するのは、本当に効果があるのか疑問である。話を聞いて理解する、という感覚が希薄で積極的に学習に参加するための材料になっていない。ハンドアウトを渡さない、というやり方も検討すべきだが、今の学生には不安の方が強く生じてしまいそうで少々難しく感じている。。ただ代替のいいアイデアが浮かばないのが実情である。正直、現状維持になりそうである。

## 6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

（参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。）

・小テストのやり方について、模索しているところである。今思いつくのは、講義後に学生へ復習すべき内容を提案し、次の講義の開始時に、復習すべき内容から出題された小テストを10分ほどの時間で行う。学習した内容の記憶の維持が狙いである。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価特になし。

## 7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

- ・2024年2月21日 AzaMoodle の行動データを用いたドロップアウト懸念者予測モデルの作成
- ・2023年10月5日我が国のコンピテンス基盤型医学教育のこれまでと未来
- ・2023年10月3～4日企業調査（企業の人材ニーズ分析）に係るFD研修会
- ・2023年7月10日グッドティーチング 賞授賞者から学ぶ“授業の工夫”

## 8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。（分量の目安：3～6行（120字～240字））

○（講義2024年4月から）

・小テストの手法の改善（前回内容を次回に行う）。

○（卒業論文指導2024年3月から）

・テクニックだけでなく、できるだけ事前の準備から片付けまで指導する。

・研究室で意思疎通が出来なくても、Meetを用いたディスカッションを行う。

## 9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

該当なし。

### 参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの  
シラバス、小テスト、宿題、レポート課題、試験問題、教材（配布資料、パワーポイント資料など）
2. 教育改善に関するもの  
（教育に直接貢献する研究、FD プログラムなどへの参加記録、教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等）、教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から  
授業評価データ、授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等）、卒業生から授業や教育についてのコメント
2. 同僚から  
授業参観の講評、作成教材についての意見、同僚のサポート実績
3. 大学／学会等から  
教育に関する表彰、教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類、カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化、学生の小論文・報告書、学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例、特に優秀な学生についての記録、指導学生の学会発表などの成果、学生の進路選択への影響についての事実、学生のレポートの改善の軌跡